

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：コントラクトブリッジで身に着ける論理的思考力 ILAS Seminar :Learning Logical Thinking Through Contract Bridge			担当者所属 職名・氏名	農学研究科 教授 小杉 賢一郎		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	共東12			使用言語	日本語
キーワード	エンタテインメントおよびゲーム情報学関連 / コントラクトブリッジ / 論理的思考力 / 情報処理力 / 国際的な社交性						
[授業の概要・目的]							
この授業は、世界で最も知的かつエキサイティングなゲームといわれるコントラクトブリッジ（以下、ブリッジとする）を通じて、論理的思考力を養うことを目的としている。 ブリッジは世界中に約1億人の愛好家がいるカードゲーム（トランプで楽しむゲーム）であり、世界ブリッジ選手権や学生選手権も開催されている。アジア競技大会では、マインドスポーツのカテゴリーにおいて、チェスや囲碁などと共に正式競技となっており、2023年杭州大会では、日本チームが銅メダルを獲得している。 ブリッジのゲームは、契約（コントラクト）とその履行・妨害によって構成されており、複雑に絡んだ情報を論理的に整理した上で最適解を導き出す思考力が必要とされる。ブリッジにより培われる論理的思考力は、今後の研究活動に役立ち、ITの基礎となるプログラミングやアルゴリズム開発などにも貢献する。また、現代社会の根底にある「契約と履行」の概念を具現化して学ぶこともできる。ブリッジは世界的に広く普及しており、国内でも近年知名度が上がりつつあるため、国内的・国際的な教養・社交性を身に着ける上でも大いに役に立つ（実際に私は、アメリカ留学中にブリッジを通じて多くの研究者と交流することができた）。 国内では、東京大学、早稲田大学、大阪大学などでもブリッジの授業が行われた実績がある。本授業は、毎回の座学と実習を通じてブリッジを楽しみながら、論理的思考力を身に着けることができる構成となっている。 経験や予備知識は全く必要としないが、新規の内容が多く含まれるため毎回の出席が必須条件となる。正当な理由のない欠席は、たとえ1回でも単位の不取得に繋がる可能性があるため、受講に当たって注意が必要である。							
[到達目標]							
コントラクトブリッジの基本的な技術を習得し、ゲームを楽しむことができる。 情報処理のスキルを身に着け、論理的思考をすることができる。 教養・社交性を身に着け、社会活動の幅を広げることができる。							
[授業計画と内容]							
第1回	イントロダクション，ルール説明						
第2回	ハンドの定量的評価方法						
第3回	チーム戦の原理						
第4回	ゲーム・スラムの概念の導入						
第5回	ビディングシステムの導入						
第6回	前半の復習						
第7回	チーム戦の体験						
第8回	ビディングシステムの理解度の確認						
第9回	新たなビディングシステムの導入						

第10回	総まとめのチーム戦	：チーム編成とチーム内練習
第11回	総まとめのチーム戦	：予選ラウンド1とチーム内反省会
第12回	総まとめのチーム戦	：予選ラウンド2とチーム内反省会
第13回	総まとめのチーム戦	：予選ラウンド3とチーム内反省会
第14回	総まとめのチーム戦	：決勝戦
第15回	フィードバック（個別の質問等に対応する）	

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言，実習への取り組み状況）により評価を行う。到達目標の達成度を基準とする。

欠席は，正当な理由のある場合にのみ認める。また，事前連絡を基本とする。正当な理由のない欠席は，1回でも不合格となる可能性があるので注意すること。

詳細については初回授業で説明する。

【教科書】

使用しない

自作の資料を用いて授業を行う。

【参考書等】

（参考書）

清水 映樹『ゼロからのコントラクトブリッジ』（星雲社，2013）ISBN:9784434183799（入門書。復習に役立ちます。）

【授業外学修（予習・復習）等】

LMSにアップロードされた講義資料を用いた予習・復習が効果的。

毎回の出席が必須。毎回の授業で新しい内容が解説されるので，欠席すると取り残されます。

【その他（オフィスアワー等）】

授業に関する学習コミュニティとしてLMSを活用します。

授業中の積極的な質問や発言を期待します。

授業内容に関する質問やリクエストはLMSのメール機能などを活用して受け付けます。

【主要授業科目（学部・学科名）】